

Title	<紹介>新稲法子著『会話で覚える四字熟語』
Author(s)	藪根, 知美
Citation	語文. 2012, 98, p. 54-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69199
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

新稲法子著『公話で覚える四字熟語』

飯根知美

北高柔道部二年生の沢村拓は、買い出し先のスーパー山手でアルバイトをする女子大生・一条香に密かに思いを寄せている。ある日、ライバル校である東南学園柔道部に、アメリカからの交換留学生ボブ・スミス（一八〇センチ一〇〇キロの巨漢）がやって来た。悪戦苦闘する北高柔道部。果たして拓は、不倶戴天の敵ボブ・スミスを倒し、香の心を射止めることができるのか――。

二〇一一年七月に創刊されたばかりの「京都書房」ことのは新書から刊行された本書は、右に挙げたあらすじからも分かるように、これまでの「四字熟語」と銘打つ本とはまったく趣を異にしている。ほぼ全編が登場人物の会話によって構成され、会話中にちりばめられた「生きた四字熟語」に触れることのできる、新しい形の四字熟語入門書である。著者の言葉に

ぜひこの本の登場人物になりきって、会話を楽しみながら四字熟語に親しんでいただきたいと思います。どのような場面でもどんな四字熟語が使えるのかを、自分自身の生活の中でイメージできれば、四字熟語の理解につながるでしょう。

(はじめに)

とあるように、四字熟語に親しみをもちやすいようにとの工夫が随所に見て取れる内容となっており、約四〇〇語という収録数を

感じさせず、気軽に読み進めることができる。登場人物の会話も、あくまで身近な話題で練り広げられる。例えば、大学内で誰もが一度は耳にしたことのある学生同士の会話も、本書にかかれれば次のごとくである。

香 「今悩んでいるの。私ってどんな仕事に向いているんだろうって……。輾転反側して眠れないほど。暗中模索の最中というわけ。」

美紀 「私も。大学時代ってどう過ごせばいいんだろう。大人はみんな異口同音に自分を磨けなんて言うじゃない。そんな曖昧模糊としたこと言われても、ねえ。」

(一一八頁)

また、章末に設けられたコラム「香の四字熟GO!」では、日本と中国の四字熟語の使われ方の違いや、「山紫水明」という言葉を作ったとされる頼山陽について、「月下水人」の由来など、四字熟語にまつわる、より専門的な話題が紹介されている。「なぜ四字の熟語が多いのか」、「そもそも四字熟語とは何か」といった、改めて尋ねられると戸惑うような根本的な疑問についても丁寧に説明されており、何度も「そうだったのか」と膝を打った。

本書は、全国高等学校国語教育研究会の推薦図書にも指定されているが、同世代の登場人物の軽快な会話や、愛らしいイラスト、持っているだけでも嬉しくなるポップな装丁は、高校生にとっても手に取りやすく、身近な教材として役立つことは間違いないだろう。登場人物たちと一緒に、緊湊一番、四字熟語の奥深

い世界を学びたくなる楽しい一冊である。

(京都書房、二〇二二年七月、一九一頁、七七七円)

(やぶね・ともみ 本学大学院博士前期課程修了)